

■ 平成27年度

2級土木施工管理技術検定〔学科試験〕解答

■種別：土木

問題番号	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10
解答番号	1	4	2	3	1	3	1	4	1	4
問題番号	No. 11	No. 12	No. 13	No. 14	No. 15	No. 16	No. 17	No. 18	No. 19	No. 20
解答番号	3	2	3	4	2	2	1	2	1	3
問題番号	No. 21	No. 22	No. 23	No. 24	No. 25	No. 26	No. 27	No. 28	No. 29	No. 30
解答番号	4	2	3	1	2	2	4	1	2	4
問題番号	No. 31	No. 32	No. 33	No. 34	No. 35	No. 36	No. 37	No. 38	No. 39	No. 40
解答番号	4	3	1	3	4	3	1	3	1	4
問題番号	No. 41	No. 42	No. 43	No. 44	No. 45	No. 46	No. 47	No. 48	No. 49	No. 50
解答番号	1	2	4	3	4	3	1	2	2	4
問題番号	No. 51	No. 52	No. 53	No. 54	No. 55	No. 56	No. 57	No. 58	No. 59	No. 60
解答番号	3	1	3	3	3	4	2	2	4	1
問題番号	No. 61									
解答番号	2									

問題番号No. 1～No. 11までの11問題のうちから9問、
問題番号No. 12～No. 31までの20問題のうちから6問、
問題番号No. 32～No. 42までの11問題のうちから6問題の選択となっています。
問題番号No. 43～No. 61までの19問題は、必須問題となります。



技術検定研修協会

仙台市青葉区二日町13-22カルコス仙台ビル306

■ TEL.022(346)6251

■ FAX.022(266)0868

2級土木施工管理技術検定〔実地試験〕解答

【問題1】 経験記述問題

【問題2】

- (イ) ほぐした土量
- (ロ) 締め固めた土量
- (ハ) 運搬
- (ニ) 配分
- (ホ) 240

【問題3】

- ・沈下対策
 - ①サンドドレーン工法
 - ②カードボードドレーン工法
 - ③盛土荷重載荷工法
 - ④サンドコンパクションパイル工法
 - ⑤軽量盛土工法
 - ⑥深層混合処理工法
 - ⑦敷設材工法
 - ⑧表層混合処理工法
 - ⑨サンドマット工法

以上のうちから5つ記述する。

【問題4】

- (イ) 付着
- (ロ) 0.8
- (ハ) かぶり
- (ニ) 常温
- (ホ) はく離

【問題5】

- ①コンクリートは、打込み後、硬化を始めるまで、日光の直射、風等による水分の逸散を防ぐ。コンクリート打込み後ごく早い時期に表面が乾燥して内部の水分が失われると、コンクリートの硬化作用が止まり、コンクリートが収縮してひび割れを生ずるおそれがある。このため、直射日光や風などによって表面だけが急激に乾燥するとひび割れの原因となることから、シート等により日よけや風よけを用いる。
- ②表面を荒らさないで作業ができるほど硬化したら、コンクリートの露出面は養生マット、布等をぬらしたもので覆うか、または散水、湛水を行い、湿潤状態に保つ。これはコンクリートで十分硬化させることと、硬化中の乾燥による収縮をできるだけ小さくするためである。
- ③コンクリートは、十分な硬化が進むまで、硬化に必要な温度条件を保ち、低温、高温、急激な温度変化等による有害な影響を受け

ないよう、必要に応じて温度制御養生を行う。

- ④コンクリートは、養生期間に予想される振動、衝撃、荷重等の有害な作用から保護する。

以上のうちから2つ記述する。

【問題6】

- (イ) 粗骨材
- (ロ) スランプ
- (ハ) 呼び強度
- (ニ) ± 1.5
- (ホ) 0.3

【問題7】

- (イ) 2
- (ロ) より高い
- (ハ) 85
- (ニ) 作業主任者
- (ホ) 40

【問題8】

- ①施工機械のトラフィカビリティが確保できること。
- ②所定の締め固めが行いやすいこと。
- ③締め固められた土のせん断強さが大きく、圧縮性（沈下量）が小さいこと。
- ④透水性が小さいこと。
- ⑤有機物（早木・その他）を含まないこと。
- ⑥吸水による膨潤性の低いこと。

以上のうちから2つ記述する。

【問題9】

- ①低騒音形の建設機械を使用する。
- ②土工板、バケットの衝撃的な操作を避ける。
- ③ブルドーザー作業における不必要な空ふかしや、高負荷での運転を避ける。
- ④ブルドーザー作業における後進時の高速走行を避ける。
- ⑤市街地等での作業の場合、夜間や休日での作業を自粛する。
- ⑥防音シートを設置し、騒音の伝播を極力抑える。
- ⑦特定建設作業に該当する場合（ブルドーザー定格出力40kW以上、バックホウ定格出力80kW以上）、騒音規制法の規定を遵守して作業する。

以上のうちから2つ記述する。